

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	① 利用者の生活を支える介護（在宅におけるケア等）とサービス、実践について理解を深める。 ② 介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って理解できるようにする。 ③ 研修開始にあたり、具体的イメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるような学習とする。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> ・介護保険の意義（自立支援、利用者本位、社会保険方式） ・介護保険サービス（居宅サービス、施設サービス） ・介護保険外サービス ・介護度による利用可能なサービスの種類 ・サービス利用の手続き
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れ ・チームアプローチと他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 ・介護職員初任者研修と、働く介護現場の理解
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 全文ふりがな付き（中央法規出版株式会社 発行） 第1巻
------------	---

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることへの自覚を促す。 ② 介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本視点（自立支援、介護予防）と、やってはいけないことを行動例等から学び、理解できるようにする。 ③ 尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開について理解し自ら概説できるように、具体的でわかりやすい表現を用いる。 ④ 虐待の定義、身体拘束、サービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを理解し、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを実践できるように、介護現場での具体的事例を複数用いて理解を促す。 ⑤ 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 ⑥ 人権学習の目的（差別を発見する、差別をなくすために行動する、自分が差別をしない）を理解し、行動するために、何が差別・虐待・人権侵害であるかを知り、具体的な行動を考えるよう促す。 ⑦ 人権が守られていない現状（障がい者・高齢者に対する差別、部落問題、ハンセン病問題、野宿生活者問題）を理解できるよう、具体例を用いて理解を促し、どう行動するかを考え、実践を促す。 ⑧ 差別や虐待（身体的、心理的、放置、性的、経済的）が法律でどのように規定されているか、国連の「障害者権利条約」、児童・障害者・高齢者虐待防止法によりどのように国の動きや世の中が変化してきたかを理解し、行動につながるよう促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	4		<講義内容> ・人権と尊厳の保持（個人としての尊重、インクルージョン、ピープル・ファースト、セルフ・アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護） ・ICF（介護分野におけるICF） ・QOL（QOLの考え方、生活の質） ・ノーマライゼーション（ノーマライゼーションの考え方） ・虐待防止・身体拘束禁止（身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援） ・個人の権利を守る制度の概要（個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）
② 自立に向けた介護	3	3		<講義内容> ・自立支援（自立・自律支援、残存機能の活用、動機の欲求、意欲を高める支援、個性／個別ケア、重度化防止） ・介護の原則（①チームワークを大切に、②利用者の生活をトータルにみる、③ものごとの決定は利用者、④現実的な解決を図る） ・介護予防（介護予防の考え方）
③ 人権啓発に係る基礎知識 (2時間)	2	2		<講義内容> ・人権学習の目的（差別を発見する、差別をなくすために行動する、自分が差別をしない） ・差別、虐待、人権侵害と、人権が守られていない現状 ・法律と国の動き、自分が行動できること
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社 発行） 全文ふりがな付き 第1巻 ・ハンセン病回復者支援センター発行 DVD教材
------------	--

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<p>① 施設と居宅という介護環境の特性を理解し、多職種連携のあり方とそれぞれの特性を理解できるようロールプレイ等を用いる。</p> <p>② 地域包括ケアの役割と機能を理解する。</p> <p>③ 介護職に求められる専門性と職業倫理の重要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを具体例を用いて理解できるよう努める。</p> <p>④ 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができるよう促す。</p> <p>⑤ 介護現場で起こりうる典型的な事故や感染、介護における主要なリスクについて理解し、防止策や安全対策について自ら考える力を養い、他職種との連携の具体策を検討する。</p> <p>⑥ 介護職に起こりやすい健康障がいや受けやすいストレス、健康管理やストレスマネジメントのあり方や留意点を理解し、実践できる力を養う。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	3		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特性と理解 ・居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス ・地域包括ケアの方向性、役割と機能 ・介護の専門性（重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチーム） ・居宅介護のおもな原則（家庭の生活習慣・価値観の尊重、自己決定の尊重、自立支援、家族との信頼関係づくり、安全の介護、予防的介護） ・施設介護の主な原則（プライバシー・生活習慣・価値観の尊重、自立性の拡大、地域・仲間との交流、家庭的な場づくり、家族との信頼関係づくり、安全の確保、予防的介護） ・介護に関する職種（介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味） ・介護に関する様々な職種と専門性、チームにおける役割分担 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護のサービスに関わる様々な職種について理解した後、それぞれの専門職の役割を決め、ロールプレイで利用者に関わるチームケアの模擬会議でケース検討を行う。
② 介護職の職業倫理	1	1		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の高い倫理性の理解（職業倫理、専門職の倫理の意義、介護の倫理） ・介護職としての社会的責任の理解（利用者・家族との関わり方、関わる際の留意点） ・プライバシーの保護・尊重
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・リスクとハザード（とらえ方と状況の理解） ・介護事故予防、安全対策（リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等） ・感染対策の基本的知識 ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・「感染」に対する正しい知識

④ 介護職の安全	1	1		<講義内容> ・介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理（腰痛の予防に関する知識、手洗い基本、うがいの励行、感染症対策） ・ストレスマネジメント（介護職員のストレス、職場のストレス等）
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社 発行） 全文ふりがな付き 第1巻
------------	---

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携		
指導目標	① 介護保険制度の理念、障がい者総合支援制度の目的、サービス利用の流れを理解する。 ② 利用者の生活を中心に考え、支援するための介護保険制度、障がい者支援制度の理解。 ③ 医療・看護の役割とチームケア必要性について学び、看護師と介護職の連携、課題、チームにおける役割分担を理解する。 ④ リハビリテーションの事例を通し、傷病の急性期、回復期、維持期の内容を学ぶ。 ⑤ 障がい者の自立と社会参加の意義、役割を理解し支援に生かし自立支援法の目的及び概要の理解をする。 ⑥ 介護職が取り扱う個人情報保護法の活用とルール、成年後見制度を活かし判断能力が衰えた方の日常生活自立支援事業について学ぶ。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
① 介護保険制度	3	3	0
② 医療との連携とリハビリテーション	3	3	0
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3	0
(合計時間数)	9	9	0

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社 発行） 全文ふりがな付き 第1巻
------------	---

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 利用者の心理や人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由を考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることを理解する。 ② チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解し、記録等を作成する介護職員の理解が必要である			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (相手のコミュニケーション能力に対する、理解や配慮、傾聴、共感の返答) ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (言語的コミュニケーションの特徴、非言語コミュニケーションの特徴) ・利用者・家族とのコミュニケーション実際 (利用者の思いを把握する、利用者の感情に共感する、意欲低下の要因を考える、家族の心理的理解、いたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難しない、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い) ・利用者の状況に応じたコミュニケーション技術の実際 (視力、聴力、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障がい、認知症に応じたコミュニケーション技術) <演習実施方法> ・様々な場面においてのコミュニケーションのロールプレイ (食事、整容等の場面、施設、居宅)
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護職と記録 (介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書[訪問、通所、入所、福祉用具貸与]、ヒヤリハット報告書等) ・報告 (報告・連絡・相談の留意点) ・コミュニケーションを促す環境 (会議、情報共有の場、役割の認識の場、ケアカンファレンスの重要性) <演習実施方法> ・報告書類の作成や記録の書き方 (5W1H)
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト (中央法規出版株式会社 発行) 全文ふりがな付き 第1巻
------------	--

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 高齢者に多く見られる心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、生理的な側面から知識を身に付ける必要を理解をする。 ② 高齢者に多い疾病の種類とその症状の特徴、生活上での留意点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	3		<講義内容> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (感覚・知覚・注意力・記憶力・感情の変化、防衛反応[反射]、喪失体験) ・老化に伴う心身の変化と日常生活への影響 (身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響)
② 高齢者と健康	3	3		<講義内容> ・高齢者に多い病気と基礎知識 (身体的機能・精神的機能の変化と病気の主な症状) ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (生活習慣病・高血圧・糖尿病・循環器・呼吸器・消化器・脳神経系・腎臓・泌尿器・こころの病気等、誤嚥性肺炎、高齢者の感染症)
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト (中央法規出版株式会社 発行) 全文ふりがな付き 第1巻 人体模型
------------	--

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 認知症利用者の心理・行動を検証し、その意味を把握することで介護における認知症を理解することの必要性を見つける。 ② 認知症利用者の健康管理、生活環境の意義、コミュニケーションの原則、ポイント、関わり方を理解する。 ③ 家族の気持ち、家族の受けやすいストレスについて理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	1		<講義内容> ・認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点）
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		<講義内容> ・認知症の基礎的概念、認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理 （認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理、治療、薬物療法、認知症に使用される薬）
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ・認知症利用者への対応
④ 家族への支援	1	1		<講義内容> ・認知症受容課程での援助（当事者や介護家族とのコミュニケーションを深め、介護職の役割を考える） ・介護負担の軽減
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト（中央法規出版株式会社 発行） 全文ふりがな付き 第1巻 人体模型
------------	---

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 障がいの概念と ICF (国際生活機能分類)、障がい者福祉の基本的考え方を理解することの大切さを理解する。 ② 高齢者の介護との違いを認識し、それぞれの障がい特性と介護時の注意点を理解する。 ③ 家族の心理と介護の負担を理解し、必要に応じた家族支援を学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> ・障がいの概念と ICF ・障がい者福祉の基本理念 (ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの概念)
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1		<講義内容> ・身体障がい (視覚、聴覚、平衡、言語、肢体不自由、内部障がい等) ・知的障がい ・精神障がい (高次脳機能障がい、発達障がいを含む) ・その他の心理の機能障がい ・難病 <演習内容> アイマスクを用いて疑似体験
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		<講義内容> ・家族への支援 (障がいの理解・障がいの受容理解支援、介護負担の軽減)
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト (中央法規出版株式会社 発行) 全文ふりがな付き 第1巻 アイマスク、パソコン、プロジェクター
------------	--

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	① 人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等の理解を促す。 ② 安全な介護サービスの提供方法を理解した上で、基礎的な一部または全介助等の介護技術の習得を図る。 ③ 事故予防の観点から、危険を予測し、回避できるような行動と介護技術の習得を図る。 ④ 利用者の尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識の習得を図る。 ⑤ 利用者一人ひとりに適切な介護を行うための基本的な考えを理解し、根拠に基づく介護の重要性の理解を促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
ア 基本知識の学習 ① 介護の基本的な考え方	5	5		<講義内容> ・ I C F の視点に基づく生活支援 ・ 自立支援、個別支援 ・ 我流介護の排除 ・ 介護保険制度下の介護サービス ・ 利用者の選択によるサービスの利用 ・ 利用者主体のサービス提供 ・ 多様なサービス（保健・医療・福祉）との連携
ア 基本知識の学習 ② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		<講義内容> ・ 高齢者の心理(加齢に伴うこころの変化：身体面、感覚・知覚・注意力の低下、学習・記憶に関する能力の低下、感情と意欲の基礎知識、社会的環境の変化、高齢期の喪失体験) ・ 自己実現と生きがい（マズローの欲求の5段階） ・ こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響
ア 基本知識の介護 ③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	5		<講義内容> ・ 人体各部（骨・関節・筋）の名称と動き・働きの基礎知識 ・ ボディメカニクスの活用（体の動きの基本動作：体位変換、起き上がり、いすからの立ち上がり、移動動作、床からの立ち上がり、歩行） ・ ボディメカニクスの基本原理、留意点 ・ 神経系に関する基礎知識 ・ バイタルチェック ・ 利用者のこころとからだの変化に気付く視点
(小計時間数) ア①～③	13	13	0	

<p>イ生活支援技術の講義・演習 ④ 生活と家事</p>	6	6		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活における家事支援の必要性 ・その人らしい生活、一人ひとりの生活の違い（生活歴、環境、生活習慣、価値観） ・自己決定 ・自立支援、予防介護、主体性・能動性を引き出す介護 ・家事支援の基本姿勢（信頼関係の構築、秘密保持等） ・家事支援の介護技術、留意点（調理、掃除、洗濯等） <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護での家事支援を想定して、利用者側・介護者側の役割を決め、ロールプレイを取り入れながら自己決定・自立支援、基本姿勢に留意した対応について学ぶ。 ・家事支援の介護技術については、備品（掃除用具、衣服等）を用いて留意点を学ぶ。
<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑤ 快適な居住環境整備と介護</p>	6	6		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢による身体機能の変化や障がいと住宅環境の影響 ・快適な住環境に関する基礎知識 ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・住宅改修 ・福祉用具貸与、給付 ・快適な環境作りと安全 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像で、高齢者の視力低下等による見え方や白内障等の疾患による見え方の違いを体感し、高齢者や障がいのある方への環境と心理へ配慮した介護を学ぶ。
<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	2	2		<p><講義内容></p> <p>I 衣服着脱の介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択 ・衣服着脱の介護の留意点（片麻痺のある方の介護、四肢麻痺等ある方のベッド上での介護） ・身じたく ・自立を促す介護 ・利用者のこころとからだに配慮した声かけの重要性 <p>II 身体の清潔の介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容の必要性、整容行動 ・洗面 ・自立を促す介護と声かけの重要性 ・利用者のこころとからだに配慮した声かけの重要性 ・口腔ケアの基本と重要性 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への声かけ ・2人組となり互いに、着替え用衣服を用いて、片麻痺のある方の着脱介護の実践 ・着替え用衣服を用いて、四肢麻痺等ある方のベッド上での着脱介護の実践
<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	6	6		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用法 ・利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗の介護方法 ・移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と危険を予測した安全な介護方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な介護方法(利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用、自立支援、重心・重力の働きへの理解、ボディメカニクスの基本原則) ・移動・移乗介助の具体的な方法 ・褥瘡予防 ・利用者のこころとからだに配慮した声かけの重要性

			<p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗、ベッド・車いす間の移乗、車いす・洋式トイレ間の移乗）を2人組で互いに実践し、体感することで、利用者への配慮事項を確認する。 ・移動介助の具体的な方法（館内での車いすでの移動）を2人組で互いに実践し、体感することで利用者への配慮事項を確認する。 ・視覚障がいのある人の移動介護の方法を2人組で互いに実践し、体感することで、利用者への配慮事項を確認する。
<p>イ生活支援技術の講義・演習</p> <p>⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	11	11	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・咀嚼と嚥下のメカニズムと食事形態への配慮 ・誤嚥（誤嚥性肺炎）の危険性と予防 ・食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法 ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介護者の意識、残存能力と自立支援 ・低栄養の弊害、脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・空腹感、満腹感、好み ・食事環境の整備（時間、場所等） ・食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・利用者のところとからだに配慮した声かけの重要性 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・せんべい等を食べ、咀嚼と嚥下を意識する体験 ・ゼリーやお茶を食し、食道と気管を意識して誤嚥の危険性（飲食物、食事形態、ところ、からだ、姿勢）を体験 ・2人組でいすに座った状態での食事介助（片麻痺のある方等）を互いに実践し、配慮事項を確認する ・2人組でベッド上での食事介助（全介助が必要な方等）を互いに実践し、配慮事項を確認する。 ・視覚障がいのある方への食事介助（声かけ）を2人組で互いに実践し、配慮事項を確認する
<p>イ生活支援技術の講義・演習</p> <p>⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	8	8	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・さまざまな入浴用具の活用法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安全に配慮した入浴介護の方法と留意事項（片麻痺のある方、全介助が必要な方等） ・障がいに応じた入浴設備と入浴方法 ・入浴時に起こりやすい事故の予防について ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認と声かけの重要性 ・さまざまな整容用具の活用法 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ・陰部洗浄（臥床状態での方法） ・足浴・手浴・洗髪での留意点 ・洗髪の介護（ケリーパット作り、ベッド上での洗髪、ドライヤーかけ）の方法と留意点 ・ところとからだと安全に配慮した声かけの重要性 ・残存能力を活用し、自立支援に向けた介護 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の頭部を自分の指のはらで洗う練習（力加減、指のはらの感覚） ・2人組で互いの体（手・腕、足、洗髪）を洗う介護の実践で、配慮事項を確認する ・2人組で片麻痺の方の浴槽への出入りの介護を実践し、配慮事項を確認する。 ・2人組となり互いに、ベッド上での洗髪介護の実践 ・全身清拭、陰部洗浄介護の実践

<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	5	5		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備 ・排泄用具の活用法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・排泄とは（排便、排尿の仕組み、身体面・生理面での意味、心理面での意味、社会的な意味） ・プライドと羞恥心への配慮（プライバシーの確保、おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害） ・排泄障がい日常生活に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連） ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ・おむつを利用している利用者への排泄介助の具体的方法 ・便秘の予防（水分摂取量保持、食事内容の工夫、繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ） ・排泄介助の際に注意して観察する事項（褥瘡、発赤、排せつ物の量・色等） ・ところとからだに配慮した声かけの重要性 ・残存能力の活用、自立支援 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で互いに、一部介助を要する利用者のトイレ介助の実践（ポータブルトイレ、洋式トイレ、尿とりパッド・リハビリパンツ使用）し、配慮事項を確認する。 ・2人組で互いに、おむつを利用している利用者への排泄介助（陰部清拭、体位姿勢交換を含む）の実践（ベッド上、おむつ利用）し、配慮事項を確認する。
<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	3	3		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫 ・環境整備 ・安楽な姿勢、体位 ・褥瘡が起りやすい状況、褥瘡予防 ・褥瘡を作らないために重要な体位姿勢交換の介護方法 ・褥瘡を作らないために重要なシーツ交換の介護方法 ・利用者と介護者にとって楽で安全な介護方法 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いすに座った状態、ベッド上で仰臥位・側臥位での安楽な姿勢について、枕・ナーセントパット、クッション、布団等を用いて体験 ・褥瘡予防のためのベッド上での体位姿勢交換について、2人組になって互いに、安全に留意した介護方法を実践し、配慮事項を確認する。
<p>イ生活支援技術の講義・演習 ⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	3	3		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・生から死への過程 ・「死」に向き合うところの理解、苦痛のすくない死への支援 ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性
<p>(小計時間数) イ④～⑫</p>	50	50		

ウ 生活支援技術演習 ⑬ 介護課程の基礎的理解	6	6		<講義内容> ・介護課程の目的・意義・展開 ・介護課程とチームアプローチ <演習実施方法> 事例検討を行いロールプレイ・記録報告 チームでのディスカッション
ウ 生活支援技術演習 ⑭ 総合生活支援技術演習	6	6		<講義内容> ・事例の提示 「高齢分野」「障がい分野」から同じ事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促すこと <演習実施方法> ・本科目の6～11の内容における各技術の度合いを評価する
(小計時間数) ウ⑬～⑭	12	12	0	
(合計時間数) ①～⑭	75	75	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 全文ふりがな付き（中央法規出版株式会社 発行） 第2巻 ベッド、ベッドサイドテーブル、シーツ、防水シーツ、枕、ナーセントパット、クッション 車いす（自走・介護用）、ポータブルトイレ、介護人形、救急法人形、ドライヤー、タオル バスタオル、シャンプー、リンス、電子体温計、電子血圧計、パジャマ、自助具類、食器類、お盆 トロミ、食事用エプロン、コップ、ガーグルベース、新聞紙、プロジェクター、パソコン
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 66

商号又は名称：社会福祉法人

大阪市障害者福祉・スポーツ協会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修会全体を振り返り、学んだことについての再確認を行い、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		<講義内容> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
② 就業への備えと研修終了後における事例	2	2		<講義内容> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所の事例
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト 全文ふりがな付き（中央法規出版株式会社 発行） 第2巻
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。